

〈原 著〉

## ダンス領域内の種目採択に影響を及ぼす要因の検討

—創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較—

中村 恭子\*・浦井 孝夫\*\*

Research of the factor that affects the dance item adoption in a dance domain  
: Comparison of creative dance and dance of modern rhythm

Kyoko NAKAMURA\* and Takao URAI\*\*

### Abstract

The purpose of this research was to examine the factor that has affected adoption of Creative Dance and Dance of Modern Rhythm.

The method investigated the actual condition of a dance lesson, the teacher's characteristic and consciousness, and the relation between each was considered. The subjects were the dance teacher of 651 junior high schools. The period was from January 7 to January 31., 2004.

The results were as follows.

1. The intention of dance item adoption of the teacher was reflected in the enforcement of the dance item in a dance lesson.
2. The teacher's sex, age, and experience of instruction did not influence the intention of dance item adoption of the teacher.
3. The teacher who adopted Creative Dance esteemed the target of the study attitude of Creative Dance. Moreover, he considered the question about the contents of study of Dance of Modern Rhythm, and felt uneasy about the instruction.
4. The teacher who adopted Dance of Modern Rhythm esteemed that the student's interest and concern are high, pleasure of dancing, and the student learned actively to Dance of Modern Rhythm. Moreover, he considered that Creative Dance had low interest and concern by the student, and that the student's capability and aptitude were not suited.

The conclusion from the above regarding, the factor that affects the adoption of a dance item is that what each teacher considers important in a dance lesson is the prevailing influences.

Key words: Creative Dance, Dance of Modern Rhythm, Item adoption

## 1. 緒 言

### 1.1 学習指導要領の改訂に伴うダンス領域への期待と課題

平成10年度告示の学習指導要領では、「生きる力」の育成を目標として自ら学ぶ態度や課題解決学習が重視され、体育においては心と体を一体と

---

\* ダンス運動学研究室  
Dance Movement

\*\* 体育科教育学研究室  
Sport Pedagogy

してとらえた学習が重視されている<sup>5)6)7)8)9)</sup>。ダンスはリズムカルな身体運動による自己表現の喜びと仲間との共感・交流の楽しさを特性とする運動領域であり、特に、創作ダンスは自主創造性教育を主眼として取り組まれてきた<sup>1)2)3)4)</sup>。そのため、現代における教育課題、教育目標に接近しやすい運動領域として、ダンスの果たすべき役割が再評価され期待が寄せられている<sup>4)17)18)</sup>。これからの体育科教育の重要な柱のひとつと期待されるダンス領域の学習内容を検討する意義は大きいと考える。

一方、同年度の学習指導要領改訂<sup>7)8)16)</sup>で各教科の配当時間が減少し、保健体育科では従来の年間105時間から90時間に縮小された。また、領域および種目の選択幅がいわゆる拡大された。ダンス領域では従来の「創作ダンス」、「フォークダンス」に加えて新たに「現代的なリズムのダンス」が導入され、これらのうちから選択して履修できるようにすることとされた。さらに、地域や学校の実情に応じて、「その他のダンス」についても履修させることができることとされた。教科配当時間縮小の関係から学習内容の精選が求められる中、ダンスの種目数が増やされたことは、ダンス領域の充実に対する期待の現れとみることもできよう。しかし、種目数が増えてもダンスに充当できる時間数が減少する可能性が高いため学習内容の充実は難しく、教材研究や指導法研究、カリキュラムの検討が必要となっている。

## 1.2 ダンス領域の授業実施と種目採択の現状

学習指導要領改訂後のダンス授業の実態調査として、著者らは平成13、14年度に高等学校の実態調査を実施し、種目採択の状況を報告<sup>12)13)14)</sup>した。その結果をふまえて平成15年度に実施した中学校の実態調査<sup>10)11)</sup>によると、中学校におけるダンスの年間配当時間は平均 $10.0 \pm 5.8$ 時間で、実施ダンス種目数は年間 $1.4 \pm 0.6$ 種目、約68.8%の学校が1種目のみを扱っていることが報告されている。3年間の累計でも配当時間は $25.7 \pm 11.5$ 時間、実施ダンス種目数は $1.7 \pm 0.8$ 種目、42.6%の学校が1種目しか扱っていなかった。

また、同調査<sup>10)11)</sup>によると、各ダンス種目の実

施率は3年間の累計で創作ダンス63.7%、現代的なリズムのダンス54.4%、フォークダンス24.1%、その他のダンス32.5%であった。フォークダンスの実施率は低く、代わりに現代的なリズムのダンスの実施率が創作ダンスに次いで半数以上を占めていた。ダンス領域の採択種目については、高等学校を対象とした実態調査<sup>12)13)14)</sup>においても同様の傾向が報告されており、現在では、創作ダンスと現代的なリズムのダンスの2種目が主要なダンス種目となっているといえる。

さらに、ダンス領域の授業は88.1%の学校で必修種目として実施されており、領域選択制での授業の実施は非常に少ない。また、学習指導要領によれば領域内の種目の取り扱いについては生徒による選択履修ができるようにすることと明記されているにも拘らず、実際には領域内種目選択性の実施率は非常に低く、1年生で88.6%、3年生でも71.3%の学校で教員の採択により種目が決定されていることが報告されている<sup>10)11)</sup>。すなわち、中学校のダンス領域では教員の判断により創作ダンスもしくは現代的なリズムのダンスのどちらか1種目を採択して実施している学校が非常に多いことが判明した。したがって、教員がどのような判断で種目採択するかがダンスの学習内容決定の鍵となっているといえる。

## 1.3 創作ダンスと現代的なリズムのダンスの学習内容の違いと種目採択における問題点

学習指導要領解説<sup>8)</sup>によれば、創作ダンスと現代的なリズムのダンスの学習内容はどちらも「動きを自由に工夫して踊る」ことや「まとまりのある動き・表現を工夫して作品を作り踊る」こと、「踊りを見せ合い、互いのよさを理解し、共感しあう」ことである。すなわち「踊る」「作る」「見る」の3要素を含む自主創造性教育をねらいとしている。両種目の学習内容の違いは踊る学習や作る学習の過程においてイメージを手がかりにするか、リズムを手がかりにするかだけのようにも見受けられる。しかし、先行研究<sup>12)13)14)15)</sup>によると、創作ダンスが自己の内省にもとづく主題の掘り下げと動きの創出を中心とした主体的創造的学習を確立しているのに対し、現代的なリズムのダ

ンスとして実施されている授業の実態は、テレビやビデオで見た流行のダンサーの模倣であったり教員による既成動作の一斉指導が中心であったりして、もっぱら「踊る」学習を中心とした内容が多く、自主創造性教育とは言い難い。どちらか1種目のみを採択することによる学びの質の違いは学校教育の場における学習内容として黙視しがたい。種目採択の判断にどのような要因が影響しているのかを明らかにして、望ましい学習内容の採択に向けての知見を得る必要がある。

#### 1.4 研究目的

本研究はダンス領域の種目の中でも授業での実施率が高い創作ダンスおよび現代的なリズムのダンスの2種目について、その採択に影響を及ぼしている要因を検討することを目的とした。種目採択の判断にあたってはそれぞれの学校の生徒の特性や担当する教員の状況、施設・設備等の物理的条件、学校行事等との関係などの多様な要因が絡むと考えられるが、本研究ではそのうち、教員の特性や各種目に対する教員の意識に焦点を当てて検討することとした。

## 2. 方 法

### 2.1 調査方法

著者らが作成した平成15年度のダンス授業に関する質問紙を郵送法により配布、回収し、結果を分析した。調査項目は教員の特性から①性別、②年齢、③教員歴、④ダンス指導歴、ダンス授業の実態から⑤各種目の実施率、⑥現代的なリズムのダンスの学習内容・学習方法、ダンス授業に対する教員の意識から⑦採択意向第1位種目、⑧各種目の学習目標重要度についての5段階評定尺度評価、⑨各種目に対する学習指導上の問題点および評価などであった(表1)。回答の集計結果から各項目間の関係を比較検討した。統計処理にはt検定および比率の差の検定を行った。

調査期間は平成16年1月7日から1月31日であった。

### 2.2 調査対象

調査対象は東京都の公立中学校651校の保健体育科教員のうち、ダンス授業を担当している教員各1名とした。(ただし、ダンス担当教員がいな

表1 調査項目一覧

1. 基礎調査
①回答者の特性…年齢, 性別, 教員歴(年), ダンス指導歴(年)
②体育の年間計画
2. ダンス授業の実態調査
①ダンス年間計画の有無
②必修または領域選択の別, 領域選択の場合の組み合わせ領域
③授業クラスの男女編成
④ダンス単元の年間配当時間
⑤実施を計画しているダンス種目および配当時間
⑥生徒による種目選択の可否
⑦現代的なリズムのダンスの学習内容
3. ダンス授業に対する教員の意識調査
①現代的なリズムのダンス導入の是非, および理由
②ダンス領域内種目選択制の是非, および理由
③最も学習させたいダンス種目
④各ダンス種目の学習目標重要度(5段階評価)
運動技能…動きの大きさ, 体力, リズム感, 運動技術
表現技能…即興, 対応の工夫, 動きの工夫, 個性・独創性, 感情移入, 作品創作, 鑑賞
学習態度…楽しさ, 有能感, 達成感, 交流, 協調性, 他者認知, 主体性
⑤各ダンス種目の指導上の問題点

い学校については体育科主任教員に回答を依頼した。) 回答者数は307名, 有効回答数306名, 有効回答率47.0%であった。回答者の内訳は男性教員64名 (20.9%) 平均年齢43.5歳, 女性教員241名 (78.8%) 平均年齢44.0歳, 性別年齢不明1名であった。教員暦は男性教員19.5年, 女性教員20.6年で有意差は認められなかったが, ダンス指導歴については男性教員3.1年, 女性教員16.1年と0.1%水準で有意な差が確認された。

### 3. 結果および考察

「ダンスの授業で1種目しか実施できないとしたらどの種目を採択するか」の問いに対し256名からの回答があり, その内訳は創作ダンス131名 (51.2%), 現代的なリズムのダンス101名 (39.5%), フォークダンス10名 (3.9%), その他のダンス14名 (5.5%) であった。実際のダンス授業における各種目の実施率と同様に, 創作ダンスおよび現代的なリズムのダンスのいずれか1種目を採択するとの意向を示した教員が非常に多かった。そこで, これらの教員をそれぞれ創作ダンス群, 現代リズム群とし, 彼らの意向に影響を及ぼしている要因を検討することとした。

#### 3.1 採択意向1位種目と実施種目

各群の教員が所属する学校のダンス授業における実際の各種目実施率は, 創作ダンス群の学校では創作ダンスが83.6%, 現代的なリズムのダンスが40.5%であったのに対し, 現代リズム群の学校では創作ダンスが48.8%, 現代的なリズムのダンスが76.2%と0.1%水準で有意な比率の差が確認された。本研究の対象者は原則としてダンス授業の担当教員であるため, その担当教員の意向は実際の種目採択・実施に大きく影響していることが伺えた。したがって, 種目採択に影響を及ぼす要因としては, 教員の種目採択意向を形成する要因を明らかにすることが有効と考えられる (表2)。

#### 3.2 種目採択意向と教員の特性

種目採択意向と教員の性別, 年齢, 教員暦, ダンス指導歴の各特性に何らかの関係があるかについて検討した。創作ダンス群と現代的なリズムのダンス群における女性教員の占める割合は創作ダ

表2 ダンス種目の実施率と種目採択意向

種目	創作ダンス群 (n=116)		現代リズム群 (n=84)		u値
	n	実施率	n	実施率	
創作ダンス	97	83.6	41	48.8	5.25***
現代リズム	24	40.5	22	76.2	-5.01***
フォークダンス	47	20.7	64	26.2	-0.91
その他のダンス	41	35.3	22	26.2	1.38

\*\*\* p<0.001

表3 教員の特性と種目採択意向

特性	創作ダンス群 (n=131)		現代リズム群 (n=101)		u値
	n	%	n	%	
性別 (女性)	113	86.3	90	90.0	0.388 n.s.

特性	創作ダンス群 (n=131)		現代リズム群 (n=100)		t値
	mean	s.d.	mean	s.d.	
年齢	44.5	9.05	42.2	9.06	0.197 n.s.
教員暦	20.9	9.31	18.8	9.71	0.682 n.s.
ダンス指導歴	15.3	10.01	14.1	9.21	0.495 n.s.

ンス群90.0%, 現代ダンス群86.3%で, その比率に有意差は認められなかった。また, 両群を構成する教員の平均年齢は創作ダンス群44.5歳, 現代リズム群42.2歳, 平均教員暦は創作ダンス群20.9年, 現代リズム群18.8年, 平均ダンス指導歴は創作ダンス群15.3年, 現代リズム群14.1年で, いずれも有意差は認められなかった。教員の種目採択意向に性別, 年齢, 教員暦, ダンス指導歴は特に関係はないと考えられる (表3)。

#### 3.3 種目採択意向と各種目の学習目標に対する評価

種目採択においては生徒に何を学ばせようとするかが大切な判断基準のひとつである。そこで, 各種目の学習目標として, 運動技能の面から「動きの大きさ」「体力」「リズム感」「運動技術」の4項目, 創作・表現技能の面から「即興」「対応の工夫」「動きの工夫」「個性・独創性」「感情移入」「作品創作」「鑑賞」の7項目, 学習態度の面

から「楽しさ」「有能感」「達成感」「交流」「協調性」「他者認知」「主体性」の7項目を取り上げ、各種目における重要度について5段階評定尺度で回答を求めた。これらの学習目標の評価において、教員の種目採択意向がどのように関係しているかを検討した。なお、これらの学習目標18項目については先行研究を参考に筆者らが検討を加えて設定した。

創作ダンスの学習目標について各群の評価の差を検討したところ、運動技能面の「動きの大きさ」「体力」、表現技能面の「動きの工夫」「対応の工夫」「鑑賞」、学習態度面の「楽しさ」「協調性」「達成感」「主体性」の各項目で創作ダンス群が有意に高い得点であった。一方、現代的なリズムのダンスの学習目標について各群の評価の差を検討したところ、「協調性」の項目で現代リズム群がやや有意に高い得点傾向を示したほかは、各項目に有意差は認められなかった(表4-1, 2)。

表4-1 創作ダンスの学習目標評価の比較

学習目標	創作ダンス群 (n=128)		現代リズム群 (n=98)		t 値
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	
動きの大きさ	4.71	0.62	4.43	0.85	2.84**
体力	3.80	0.85	3.52	0.86	2.43*
リズム感	3.81	0.77	3.61	0.85	1.86 n.s.
運動技術	3.57	0.90	3.45	0.83	1.05 n.s.
即興	4.16	0.92	4.11	0.86	0.42 n.s.
対応の工夫	4.28	0.71	4.07	0.79	2.11*
動きの工夫	4.82	0.42	4.68	0.53	2.15*
個性独創性	4.59	0.74	4.51	0.69	0.87 n.s.
感情移入	4.78	0.52	4.67	0.55	1.51 n.s.
作品創作	4.82	0.49	4.69	0.56	1.80 n.s.
鑑賞	4.53	0.70	4.27	0.73	2.79**
楽しさ	4.58	0.68	4.33	0.76	2.66**
有能感	4.55	0.71	4.41	0.73	1.44 n.s.
達成感	4.66	0.57	4.48	0.65	2.29*
交流	4.54	0.65	4.39	0.77	1.64 n.s.
協調性	4.77	0.51	4.60	0.55	2.40*
他者認知	4.55	0.60	4.46	0.68	1.08 n.s.
主体性	4.66	0.58	4.44	0.69	2.57*

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\* p<0.001

また、創作ダンス群は各種目の学習目標について、運動技能面で現代的なリズムのダンスを有意に高く評価し、表現技能面および学習態度面で創作ダンスを有意に高く評価していた。一方、現代リズム群は各種目の学習目標について、運動技能面で現代的なリズムのダンスを有意に高く評価し、表現技能面では創作ダンスを有意に高く評価していたが、学習態度面では種目の評価に差が見られなかった(表4-3, 4)。

以上から、創作ダンス群は現代リズム群よりも創作ダンスの学習目標を総合的に高く評価しており、とりわけ学習態度面の学習目標を有意に高く評価しているといえる。

### 3.4 現代的なリズムのダンスに対する評価と理由

今回の改訂から新たに導入された現代的なリズムのダンスについて、その是非の評価を求めたと

表4-2 現代的なリズムのダンスの学習目標評価の比較

学習目標	創作ダンス群 (n=128)		現代リズム群 (n=98)		t 値
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	
動きの大きさ	4.47	0.68	4.47	0.71	-0.01 n.s.
体力	4.17	0.83	4.17	0.82	0.03 n.s.
リズム感	4.62	0.63	4.59	0.64	0.35 n.s.
運動技術	3.81	0.80	3.82	0.82	-0.06 n.s.
即興	4.05	0.91	3.90	0.94	1.21 n.s.
対応の工夫	3.81	0.92	3.72	0.88	0.73 n.s.
動きの工夫	4.10	0.81	4.20	0.80	-0.85 n.s.
個性独創性	4.14	0.91	4.07	0.85	0.53 n.s.
感情移入	3.57	0.93	3.58	0.88	-0.04 n.s.
作品創作	4.06	0.87	4.28	0.85	-1.89 n.s.
鑑賞	3.87	0.92	3.91	0.87	-0.30 n.s.
楽しさ	4.56	0.73	4.53	0.69	0.30 n.s.
有能感	4.18	0.85	4.19	0.82	-0.14 n.s.
達成感	4.21	0.77	4.31	0.78	-0.95 n.s.
交流	4.27	0.84	4.32	0.77	-0.51 n.s.
協調性	4.28	0.84	4.52	0.61	-2.37*
他者認知	4.20	0.84	4.31	0.75	-1.07 n.s.
主体性	4.36	0.76	4.37	0.74	-0.16 n.s.

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\* p<0.001

表4-3 創作ダンス群の各種目の学習目標に対する評価 (n=128)

学習目標	創作ダンス		現代的なリズムのダンス		t 値
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	
動きの大きさ	4.71	0.62	4.47	0.68	2.99**
体力	3.80	0.85	4.17	0.83	-3.53***
リズム感	3.81	0.77	4.62	0.63	-9.22***
運動技術	3.57	0.90	3.81	0.80	-2.18*
即興	4.16	0.92	4.05	0.91	1.01 n.s.
対応の工夫	4.28	0.71	3.81	0.92	4.59***
動きの工夫	4.82	0.42	4.10	0.81	8.87***
個性独創性	4.59	0.74	4.14	0.91	4.40***
感情移入	4.78	0.52	3.57	0.93	12.81***
作品創作	4.82	0.49	4.06	0.87	8.60***
鑑賞	4.53	0.70	3.87	0.92	6.45***
楽しさ	4.58	0.68	4.56	0.73	0.27 n.s.
有能感	4.55	0.71	4.18	0.85	3.77***
達成感	4.66	0.57	4.21	0.77	5.33***
交流	4.54	0.65	4.27	0.84	2.92**
協調性	4.77	0.51	4.28	0.84	5.69***
他者認知	4.55	0.60	4.20	0.84	3.85***
主体性	4.66	0.58	4.36	0.76	3.52***

\* p&lt;0.05, \*\* p&lt;0.01, \*\*\* p&lt;0.001

表4-4 現代リズム群の各種目の学習目標に対する評価 (n=98)

学習目標	創作ダンス		現代的なリズムのダンス		t 値
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	
動きの大きさ	4.43	0.85	4.47	0.71	-0.32 n.s.
体力	3.52	0.86	4.17	0.82	-5.41***
リズム感	3.61	0.85	4.59	0.64	-9.13***
運動技術	3.45	0.83	3.82	0.82	-3.11**
即興	4.11	0.86	3.90	0.94	1.67 n.s.
対応の工夫	4.07	0.79	3.72	0.88	2.94**
動きの工夫	4.68	0.53	4.20	0.80	5.03***
個性独創性	4.51	0.69	4.07	0.85	3.94***
感情移入	4.67	0.55	3.58	0.88	10.47***
作品創作	4.69	0.56	4.28	0.85	4.07***
鑑賞	4.27	0.73	3.91	0.87	3.11**
楽しさ	4.33	0.76	4.53	0.69	-1.97 n.s.
有能感	4.41	0.73	4.19	0.82	1.96 n.s.
達成感	4.48	0.65	4.31	0.78	1.63 n.s.
交流	4.39	0.77	4.32	0.77	0.59 n.s.
協調性	4.60	0.55	4.52	0.61	1.05 n.s.
他者認知	4.46	0.68	4.31	0.75	1.43 n.s.
主体性	4.44	0.69	4.37	0.74	0.64 n.s.

\* p&lt;0.05, \*\* p&lt;0.01, \*\*\* p&lt;0.001

ころ、創作ダンス群では「非常によい」11.8%、「まあよい」52.8%、「どちらともいえない」30.7%などの回答率であり、「非常によい」「まあよい」をあわせて64.6%の肯定回答であった。それに対し現代リズム群では「非常によい」36.0%、「まあよい」59.0%で合計95.0%もの肯定回答を得、0.1%水準で有意な差が認められた。

その肯定評価の理由として、現代リズム群は「生徒の興味・関心が高い」80.0%、「踊る楽しさを体験させられる」74.0%、「生徒が主体的・積極的に取り組む」53.0%などを多くあげており、いずれの理由も創作ダンス群より有意に回答率が高かった。創作ダンス群でも「生徒の興味・関心が高い」59.0%、「踊る楽しさを体験させられる」56.6%などへの回答率は目立って高かった。現代的なリズムのダンスは楽しく踊れて生徒が好むことから教員に広く肯定評価されていることが伺え

る。一方、否定理由として創作ダンス群は「指導経験がないので不安」「創意工夫の余地が少ない」「必要性に疑問を感じる」などの項目で有意に回答率が高かった。学習内容や指導法が十分に検討・開発されていないことが、創作ダンス群の現代的なリズムのダンスに対するマイナス評価につながっていると考えられる(図1)。

### 3.5 現代的なリズムのダンスの学習内容・学習方法

現代的なリズムのダンスを実施している学校の教員に、その具体的な学習内容・学習方法として該当するすべての項目への回答を求めた。その結果、学習内容各項目への回答率において各群間の有意差は認められなかった。しかし、動き方の学習過程において、現代リズム群では「教師が提示した踊り方や作品を踊る」や「教師が提示した踊りを応用して作品を作る」など教員主導型の学習

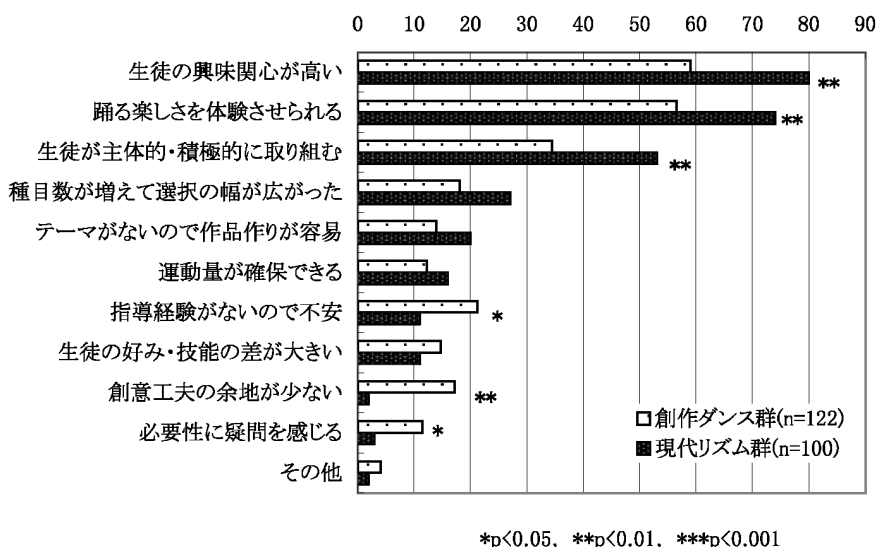


図1 現代的なリズムのダンスに対する評価理由

表5 現代的なリズムのダンスの学習内容・学習方法

学習内容・学習方法	回答率 %		u 値
	創作ダンス群 (n=51)	現代リズム群 (n=75)	
グループで動きを工夫して作品を作る	62.7	61.3	0.16 n.s.
作った作品を発表しよう	45.1	42.7	0.27 n.s.
基本的ステップや踊り方の技能を修得する	43.1	30.7	1.43 n.s.
教師が提示した踊り方や作品を踊る	33.3	44.0	-1.20 n.s.
教師が提示した踊りを応用して作品を作る	15.7	24.0	-1.13 n.s.
ビデオの踊りを応用して作品を作る	15.7	30.7	-1.92 n.s.
ビデオで流行のダンスを模倣して踊る	13.7	26.7	-1.74 n.s.
友達と感じあって即興的に対応して踊る	41.2	25.3	1.88 n.s.
各自が即興的に動きを工夫して踊る	31.4	22.7	-0.32 n.s.
まとまりのある動きを各自が工夫する	21.6	24.0	-0.64 n.s.

方法がとられている割合が高く、また、「ビデオの踊りを応用して作品を踊る」や「ビデオで流行のダンスを模倣して踊る」など映像資料を活用した学習方法を行っている割合が高い傾向にあることが伺えた。それに対し創作ダンス群は「友達と感じあって即興的に対応して踊る」や「各自が動きを自由に工夫して踊る」など、生徒の創意工夫を重んじた学習内容・学習方法を取り入れている

割合が高い傾向にあることが伺えた。現代リズム群は既成動作の学習を中心に授業を実施しているのに対し、創作ダンス群は現代的なリズムのダンスにあっても自主創造的な学習を重視する傾向にあると見ることができる(表5)。

なお、創作ダンスの学習内容・学習方法についても各群間で違いがある可能性は十分考えられるが、今回の調査では創作ダンスの学習内容・学習

方法についての調査を実施しなかったため、比較検討に及ばなかった。

### 3.6 指導上の問題点への回答率の比較

各種目の指導上の問題点について選択肢から当てはまる項目すべてについての複数回答を求め、その回答率の差を各群で比較した。創作ダンスについては「生徒の興味・関心が低い」57.1%、「生徒の能力・適性に合わない」22.4%、「体力づくりの効果が期待できない」33.7%などの項目で現代リズム群のほうが有意に回答率が高く、生徒の嗜好との不適合を多く指摘していたのに対し、創作ダンス群は「音楽の選曲が難しい」49.0%の回答率が有意に高く、教材研究についての問題点を指摘する教員が多かった(図2-1)。

現代的なリズムのダンスについては、現代リズム群は「講習会等の教材研究の機会が不十分」34.0%の項目で有意に回答率が高く、教材研究の必要性を感じている教員が多かった。創作ダンス群は「学習方法が難しい」41.5%、「創作技術の向上が期待できない」14.6%の2項目で有意に高い回答率であったほか、有意差は認められないものの「自分の実技力に不安がある」62.8%などいくつかの項目で回答率が高く、学習内容への疑問とともに指導に対する不安を感じている様子が伺

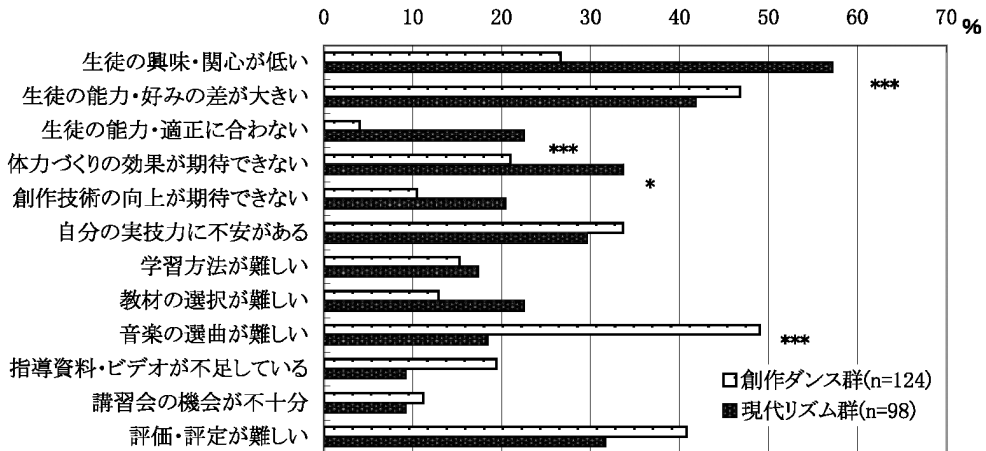
えた(図2-2)。

この現代的なリズムのダンスの指導上の問題点への回答率の差は同種目の学習内容・学習方法における各群間の違いとの関連がみられた。すなわち、既成動作の学習を中心に教授する授業を実施している現代リズム群は、自らの実技力向上もしくは指導すべき動き方の内容を研修したいとし、即興や動きの工夫を学習させようとする創作ダンス群は、創作学習の展開の難しさを感じているのではないかと推察された。

## 4. 結 論

中学校におけるダンス領域の種目のうち、創作ダンスもしくは現代的なリズムのダンスを採択しようとする判断に影響を及ぼす要因を教員の特性と意識の面から検討した結果、以下の知見が得られた。

1. ダンス担当教員の種目採択の意向が、実際の授業での各種目の採択・実施に直接的に反映されていることが確認された。
2. 教員の種目採択意向において、教員の性別、年齢、教員歴、ダンス指導歴の差による影響はほとんど認められなかった。
3. 創作ダンスを第1位に採択する意向を示し



\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

図2-1 創作ダンスの指導上の問題点



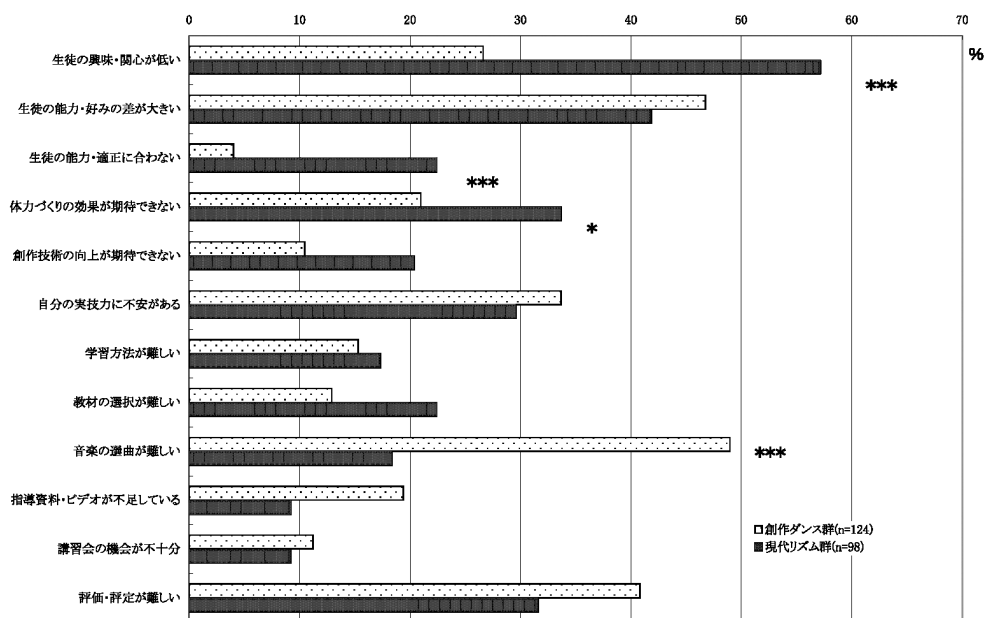


図2-2 現代的なリズムのダンスの指導上の問題点

た教員は、創作ダンスの学習態度面の学習目標を高く評価していた。

4. 創作ダンスを第1位に採択する意向を示した教員は、現代的なリズムのダンスの学習内容に疑問を感じているとともに指導に対する不安を感じていることが確認された。
5. 現代的なリズムのダンスを第1位に採択する意向を示した教員は、現代的なリズムのダンスの学習目標をとりわけ高く評価しているわけではなく、生徒の興味・関心が高いために、楽しく、主体的に学習させられることを高く評価していた。
6. 現代的なリズムのダンスを第1位に採択する意向を示した教員は、創作ダンスは生徒の興味・関心が低く、能力・適性に合わないと感じていることが確認された。

以上から、ダンス種目の採択に影響を及ぼす要因として、教員の性別や年齢、指導暦などとの関係はなく、個々の教員がダンス授業において何を重視するかが影響するとの結論を得た。すなわ

ち、教員は①ダンスの学習目標・学習内容として「踊る」ことを優先するのか「作る」ことを重視するのか、②ダンスを学習することによる教育効果（学習態度および人間形成）に期待するのか、③生徒の興味・関心、適性、等を重視するのかなど、種々の観点に対して異なった価値観を持ち、それらを総合的に判断して種目採択していると考察された。

## 文 献

- 1) M.ドップラー、松本千代栄訳 (1974) 舞踊学原論—創造的芸術経験—大修館書店、58-68
- 2) 松本千代栄他 (1992) ダンスの教育学 大修館書店
- 3) 松本富子 (1999) 表現運動・ダンスと学習指導. 最新体育科教育法 杉山重利・園山和夫編著、東京、大修館書店、120-125
- 4) 松本富子 (1999) 新しい体育分野の目標と内容—ダンス、本村清人・戸田芳雄編著：改訂中学校学習指導要領の展開—保健体育科編 明治図書出版、

183-189

- 5) 文部科学省 (1999) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編, 57-63, 東山書房
- 6) 文部省 (1999) 高等学校学習指導要領, 1-14, 96-103, 大蔵省印刷局, 東京
- 7) 文部省 (1998) 中学校学習指導要領, 1-6, 71-79, 大蔵省印刷局, 東京
- 8) 文部省 (1999) 中学校学習指導要領解説 保健体育編, 62-70, 東山書房
- 9) 本村清人 (1999) 保健体育科の改訂のねらいと要点, 本村清人, 戸田芳雄編著, 改訂中学校学習指導要領の展開—保健体育科編, 11-28, 明治図書出版
- 10) 中村恭子, 浦井孝夫 (2004) 中学校におけるダンス授業の現状と問題点—創作ダンスと現代的なリズムのダンスに着目して—, 日本体育学会第55回大会号, 593
- 11) 中村恭子, 浦井孝夫 (2004) 中学校のダンス授業に関するアンケート報告書, ダンス授業研究会
- 12) 中村恭子, 武井正子, 浦井孝夫 (2003) 「現代的なリズムのダンス」の実施状況と教員の意識に関する研究—学習目標と学習内容の検討—, 日本体育学会第54回大会号, 616
- 13) 中村恭子, 浦井孝夫 (2003) ダンス教育の目標に関する研究—高等学校のダンス担当教員の評価にもとづいて—, 順天堂大学スポーツ健康科学研究 7, 75-79
- 14) 中村恭子, 武井正子, 浦井孝夫 (2002) 高等学校におけるダンス授業のカリキュラムに関する研究—実態調査にもとづいて—, 順天堂大学スポーツ健康科学研究 6, 94-105
- 15) 佐分利育代, 広兼志保 (1994) ダンス指導実践に関する現職教員の意識—中学校を対象として—, 鳥取大学教育学部研究報告教育科学36, 309-329
- 16) 園山和夫: 選択制授業, 杉山重利・園山和夫編著: 新・体育科教育, 129-147, ぎょうせい, (1993)
- 17) 高橋るみ子, 佐藤典子 (2001) 創作ダンスの授業. 新学習指導要領による高等学校の体育の授業 東京, 大修館書店, 259-277
- 18) 牛山真貴子, 薬師寺貴花 (2001) 現代的なリズムのダンスの授業. 新学習指導要領による高等学校の体育の授業 東京, 大修館書店, 278-299

(平成16年10月8日 受付)  
 (平成16年11月30日 受理)